

第3回 篠岡地区の学校を考える会委員 議事要旨

日 時	令和7年6月27日（金） 19時 ～ 20時30分
場 所	小牧市東部市民センター 講堂
出 席 者	【委 員】 別紙のとおり 【事務局】 矢本 博士 教育部長 岩本 淳 教育部次長 丸藤 卓也 教育総務課長 瀬尾 宗利 学校教育課指導主事兼主幹兼教育総務課主幹 長屋 孔之 教育総務課学校再編推進係長 丹羽 勇人 教育総務課学校再編推進係主査 稲垣 翔太 教育総務課学校再編推進係主任
欠 席 者	水野委員、原委員
傍 聴 者	77名
配 布 資 料	資料1 第2回「学校を考える会」で提出された学校再編への「期待」等 資料2 第2回「学校を考える会」で提出された学校再編計画案への「疑問」 資料3 篠岡地区の学校再編に伴う通学区域・スクールバスについて 資料4 今後の進め方について

内 容

1 開会 2 議題 （1）第2回会議の振り返り （2）学校再編に伴う通学区域・スクールバスについて 事務局より資料1～3に基づき、説明を行い、以下のような質疑応答等を実施 【委員】 ・スクールバスの対象エリアについて、2km程度を境界に地形や道路等でエリアを定めたとの説明であったが、なぜ大山区が対象でないのか。2km以上の距離を通学している子もいると認識しており、第2期再編となれば更に遠くなる。 【事務局】 ・スクールバスの対象エリアの基本的な考え方として、現在の篠岡地区の児童のうち、最も遠い通学距離が直線距離で2.1km程度と把握しており、これ以上の距離を徒歩通学することがないよう2km程度としたものである

- ・この考え方はあくまで第1期のものであり、第2期の際には改めてスクールバスの対象エリアや考え方を整理したいと考えているが、現時点では、大山区の児童のうち、光ヶ丘小学校までの通学距離が直線距離において2 km以上離れているという事例は把握しておらず、今回、対象外としたところである。

【委員】

- ・スクールバスの運行本数について、登校時、バスの時間に間に合わなかった場合はどうなるのか。
- ・また、下校時2便という説明であったが、低学年、高学年、部活加入者に分けると最低3便はいるのではないか。

【事務局】

- ・登校時、万一、児童が乗り遅れてしまった際、バスを停留所まで戻すことは大変難しいことから、保護者等による送迎をお願いしたい。
- ・また下校時、部活動については任意加入であるという点を踏まえ、現時点では2便としたものであるが、今後、アンケートや保護者との意見交換会の中でご意見を頂いていくことを考えている。

【委員】

- ・乗り遅れの際等も含め、巡回バス「こまくる」を使用して通学することも考えられるが、桃ヶ丘小学校付近に停留所はあるのか。

【事務局】

- ・「こまくる」の停留所として「桃陵中学校前」があることは把握しているが、「こまくる」はあくまで市民の足であること、巡回バスのある地域ばかりではないことなどから、現時点では巡回バスによる通学ということは考えていない。

【委員】

- ・巡回バスのある地域において、スクールバスと並行して「こまくる」を登下校に活用していくということは考えていないということか。

【事務局】

- ・市からお示しさせていただくのは、あくまでスクールバスによる送迎である。
- ・「こまくる」は学校への送迎を目的にしたものではなく、児童生徒の乗車によって「公共施設の利用促進」や「高齢者の外出支援」といった「こまくる」本来の目的を妨げることがないように、との考えからスクールバスの導入を検討したものである。

【委員】

- ・中学生の自転車通学について、篠岡地区は起伏のあるところも多いが、電動アシスト自転車の購入に対する補助等について検討されているか。

【事務局】

- ・現時点では補助制度等の検討はしていないが、今後、他市の事例等も含め、調査、研究を進めたい。

【委員】

- ・スクールバスの考え方について、直線距離としている理由を教えてください。

【事務局】

- ・現在の篠岡地区における最も遠い通学距離が直線距離で2.1km程度であるが、当然、実際の通学路は更に長くなる。今回は分かりやすく直線距離とさせていただいた。

【委員】

- ・少し乱暴な考え方だと思う、実際の通学距離により考えてほしい。
- ・また、大山川や東名高速道路、といったエリアの分け方も乱暴だと感じる。
- ・この篠岡地区は緑の多いエリアであるが、夜間になれば薄暗い場所なども少なくないため、保護者としては通学の安全確保という観点からも、スクールバスの考え方の緩和をお願いしたい。

【事務局】

- ・ご意見として承る。

【委員】

- ・今のご意見と同様の意見になる。
- ・学校再編については賛成したいが、これを進めるにあたって最も大切なのが通学の問題である。
- ・直線距離2kmと言われたが、地形によっては真っ直ぐこれない地域もあるだろうし、陶地区のように起伏のある地域は距離だけでは児童らの負担は測れない。
- ・是非一度、すべての通学路に対して実距離や通学時間等を調査されたうえで、スクールバスの対象エリアについて、東名高速道路や大山川という境界の引き方も含め、子どもたちに寄り添って検討しなおしてほしい。

【事務局】

- ・現時点では再編後の通学路が決まっていないということもあり、直線距離とした。
- ・子どもたちの通学の安全ということを考えると、通学路の安全性や通学団の編成、委員ご指摘の地形のことも含め、子どもたちに寄り添った内容になるよう、再度、総合的に検討したいと考えている。

【委員】

- ・スクールバスについて、他市事例等を調査していたが、とある学校ではその学校の正門を起点に2km以上離れた子どもたちを対象にスクールバスで2km地点までの送迎を行う、という事例があった。
- ・これは子どもたちの体力づくりという観点から、徒歩通学者とスクールバス通学者の体力面での差がでないように、という説明がされており、面白い事例だと思ったので紹介させていただく。
- ・また学校区について、城山三丁目と四丁目の子どもたちへの時限措置を提案いただいているが、令和9年度時点で中学3年生の生徒については、確かに2年を共に過ごした光ヶ丘中学校の仲間たちと一緒に卒業したいと思うかもしれないが、中学2年生の生徒か

らすると光ヶ丘中学校に通ったのは1年だけで、再編後に過ごす期間のほうが長い。

- ・子どもによっては、より近い桃陵中学校に行きたいという意見もあるかもしれないので、もう少しフレキシブルな仕組みになると良い。

【副会長】

- ・1点目は提案と思うが、2点目について事務局から何かあるか。

【事務局】

- ・市としても各家庭の事情などに配慮し、自由に選択ができるような仕組みづくりをしていきたいと考えている。

【委員】

- ・第2回の「疑問」への回答に度々出てくる「学校再編準備調査研究委員会」とは何か。
- ・いつ頃から発足し、どういう組織になるのか。

【事務局】

- ・「学校再編準備調査研究委員会」は学校再編対象校の教職員を中心に、令和7年7月から立ち上げ、学校再編に伴う課題の洗い出しやその対応など、実務的な部分を担う委員会である。

【委員】

- ・今の質問に関連して、再編後の子どもたちの学校生活はこの「学校再編準備調査研究委員会」に係るところが非常に大きくなると思われるが、日々、お忙しい教職員の方々にプラスアルファして再編に係る事務をお願いすることになる。
- ・ぜひ教育委員会の方も学校任せにせず、積極的に関わっていただきたい。

【副会長】

- ・ご意見ということでよろしいか。

【委員】

- ・はい。

【委員】

- ・校章や校歌について、今後、公募等をすることは考えているか。

【事務局】

- ・公募等の可能性も含め、今後、「学校再編準備調査研究委員会」の中でしっかりと議論してまいりたい。

(3) 今後の進め方について

事務局より資料4に基づき、説明を行い、以下のような質疑応答等を実施

【委員】

- ・前回、学校再編計画(案)が示されて以降、保護者の方と話す中で「学校再編には絶対に反対である」といった声を聞くこともあったが、今後、そうした保護者や地域の方に対し、どのように説明をし、理解を得ていく考えなのか。

【事務局】

- ・今後、アンケートや保護者との意見交換会などを介して、児童生徒や保護者のご意見を頂くとともに、学校再編の必要性についても併せて丁寧にご説明していきたいと考えている。

【委員】

- ・保護者との意見交換会は1回だけなのか、複数回必要だと思うがどうか。
- ・また学校の先生方に対する説明会などは行わないのか。

【事務局】

- ・保護者との意見交換会については、保護者の方が1回以上参加できるよう、日にちや時間を分けて、東部市民センター等で3回程度の開催を予定していたが、ご意見も踏まえ、改めて開催回数について、改めて、検討させていただく。
- ・教職員に対する市からの説明ということについては、現時点では計画していなかったが、ご意見を踏まえ、今後、検討してまいりたい。

【委員】

- ・10月頃に予定されているパブリックコメントについては、「第4回考える会」の前に実施した方がよいと考えるがどうか。

【事務局】

- ・「第4回考える会」については、パブリックコメントの実施前に、意見交換会や住民説明会などを経て、追加や見直しを行った「学校再編計画（案）」について、委員の皆さんと議論をさせていただきたいとの考えから、この順序で提案したものである。

【委員】

- ・わかりました。

【副会長】

- ・他に、ご質問がなければ、最後に小柳会長から本日の会議の総括をお願いします。

【会長】

- ・本日も熱心に議論を頂き感謝申し上げます。
- ・また、第2回や本日の議題に対して、委員や傍聴の方からもたくさんのご意見やご提案を頂いたことについて、併せて感謝申し上げたい。
- ・本日、事務局から「今後の進め方」に関する説明があったが、これからの日程、取り組みが非常に重要なものになってくると理解しており、保護者や地域の方々から頂くであろう意見に対し、柔軟に対応いただくよう事務局にはお願いしたい。
- ・これからの時代を生きる子どもたちに対し、小牧市がどのような学校を作ろうとしているかが、きちんと伝わるようにすることが極めて重要であると考えている。
- ・また蛇足ながら、2024年の出生数は前年比で4万人以上減っているとのデータもあり、この少子化の問題をそれぞれの「地域の課題」として取り上げていくことも必要ではないかと感じる場所である。
- ・今後とも、委員の皆さまにはお互いを尊重し、建設的な会議ができるようお願い申し上げ

げる。

【副会長】

- ・他に無いようであれば、これで質疑応答は終了とさせていただきます。
- ・以上をもって、本日の議題は全部終了したので、進行を事務局にお返しする。

3 閉会